資料３

第16回 戦略推進会議（3月27日、28日）における有識者からのご指摘等について

内閣府　科学技術・イノベーション推進事務局
未来革新研究推進担当

目標１　2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現

有識者からのご指摘等

研究進捗状況、社会情勢の変化に伴うターゲットやポートフォリオの見直しの検討

- 石黒PJは進捗が早いが、今後はどこに注力していくのか。2030年以降はどこにターゲットを置くのか。
- ３つの分野（ソシオCA、BMI、体内アバター）のレベル感やターゲットが少しづつ異なる中で、後半どのようなマネジメントを実施するのか。
- ３つの分野の取組について強い関連性が見えない。3分野ともにチャレンジングな課題であり、強い必然性がなければプログラムを再構築するタイミングではないのか。
- 実証実験をもとに動くテクノロジーアウトの考えだけではなく、産業界側からのマーケットインの発想が必要。

目標1（サイバネティックアバター）と目標３（AIロボット）の目標間連携

- 基礎技術・標準化・ELSIなどの観点も含め、目標３との連携強化が必要では。

健康体への侵襲（BMI、体内CA）に対する社会受容性・ELSIの観点での検討の必要性

- 体内CAについて、健康体の人にモニタンリング機器や細胞を体内に入れる場合、科学的にも倫理的にも許されるのか社会受容性の評価や装着が人や社会にとってこれだけメリットがあるということを実証することが必要。
- 体内CAやBMIに係る極低侵襲について、世界的な合意はあるのか。

目標3　2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現

有識者からのご指摘等

研究進捗状況、社会情勢の変化に伴うターゲットやポートフォリオの見直しの検討

- 日本は、NVIDIA、テスラ、中国と三方から攻め込まれる状況になりつつあるとの認識。日本産業の強みであった産業用、特に製造用ロボットについてもその優位性が揺らぎかねない状況。従って、これらを守りきる上でどういうテーマでやっていく必要があるのかポートフォリオの見直しを考えるべきタイミング。

- 製造用ロボット以外でいろいろなロボットの活用が広がることは間違いない中で、場合によっては、NVIDIAと協働しながら、日本が抱える社会課題や実証環境を勘案し、どういう分野で日本がポジションを作る可能性があるのか、戦略を定めて狙いをつける必要がある。

- 米中が圧倒的な投資額の中、日本は今ある限られた原資でどんな戦い方ができるのか考えないといけない。

- スタートアップに期待するが、ロボット製造メーカーだけではなく、ロボットが現場に入っていくユーザー側の投資を引き出しながら、それぞれの分野で産業を進化させる、そこにロボットをどう活用するのか考える必要がある。

目標1（サイバネティックアバター）と目標３（AIロボット）の目標間連携

- 基礎技術・標準化・ELSIなどの観点も含め、目標１との連携強化が必要では。